

3 大学連携研究支援費に係る研究会活動結果

	(所 属)	(職 名)	(氏 名)
研究会 代表者	京都工芸繊維大学	教授	山本雅敏
研究会 の体制	京都工芸繊維大学 京都工芸繊維大学 京都工芸繊維大学 京都府立医科大学 東京大学 東京大学 京都大学 京都大学 オクラホマ大学 大阪市立大学 神戸大学	特任教授 特任准教授 助教 講師 (学内) 教授 教授 教授 助教 教授 准教授 特命准教授	草野好司 松林 宏 都丸雅敏 西村伊三男 加藤茂明 多羽田哲也 芹川忠夫 江島亜樹 松本博行 中村太郎 横井伯英
研究会の 名称	バイオリソースシンポジウム “KYOTO BRAND” 高品質遺伝資源の開発		
研究会活 動のキー ワード	バイオリソース、生物遺伝資源、系統開発		
研究会活 動の概要	<p>10月23日(金)、京都工芸繊維大学において、バイオリソースシンポジウム「“KYOTO BRAND” 高品質遺伝資源の開発」が開催された。</p> <p>これは、文部省令施設として我が国初のショウジョウバエ遺伝資源センターが設立され10周年を記念した行事のひとつであり、文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクトの中核機関としてこれまで世界最大の遺伝資源数で運営してきたが、さらに遺伝資源の高品質化および新規有用遺伝資源の開発にむけた先端研究の紹介を通じ、遺伝資源の将来と今後の研究動向を考える機会とするものである。</p> <p>開会に際し、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課課長石井康彦氏、および、京都工芸繊維大学副学長竹永睦生氏より、遺伝資源の維持・開発・提供の重要性と今後の多様なバイオ研究への対応、ならびに遺伝学研究の発展への期待を込めたコメントが寄せられた。</p> <p>また、シンポジウムでは、ショウジョウバエ、ラット、酵母を用いて第一線で活躍している国内外の中堅や若手研究者9名による研究報告</p>		

研究会活動の背景	<p>2010年までに世界最高水準のバイオリソースを収集・維持・提供する基盤整備を目標とした国家プロジェクト「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)」が2002年度に発足し、現在も第2期NBRPとして継続して実施されている。生物遺伝資源としてライフサイエンス、理学、薬学、農学などの研究に使用されるためには、それらの系統が高品質であり信頼して研究に使用される優良系統でなければならない。高品質系統を開発するには、研究の評価が国際的に高く認知され、開発された系統の付加情報が正確・豊富なものでなければならない。本学は3大学の連携の中で幅広い生物資源の利用研究が可能となる事から、研究会を開催し、遺伝資源の重要性の認識と、研究の推進上の利便性と有利性を共有する事で、遺伝資源を用いた新たな研究展開の議論と共同研究が期待できる。</p>																					
研究会活動の進捗状況と結果	<p>2009年10月23日（金）13:00～17:45 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパスにて開催した。</p> <p>竹永睦生 京都工芸繊維大学 副学長によるシンポジウムの趣旨説明のあと、石井康彦 文部科学省ライフサイエンス課 課長によるバイオリソース事業のモデルとなっているショウジョウバエ遺伝資源センターの紹介を盛り込んだご挨拶の後、7名の研究者から先端研究成果の話題を提供して頂き、議論した。</p> <table border="1" data-bbox="408 1167 1329 1991"> <thead> <tr> <th data-bbox="408 1167 730 1223">演題</th> <th data-bbox="738 1167 831 1223">演者</th> <th data-bbox="839 1167 1329 1223">所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="408 1227 730 1361">分子医学におけるショウジョウバエ研究の重要性</td> <td data-bbox="738 1227 831 1361">加藤茂明</td> <td data-bbox="839 1227 1329 1361">東京大学分子細胞生物学研究所 教授</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1366 730 1467">ショウジョウバエを用いた神経行動学</td> <td data-bbox="738 1366 831 1467">江島 亜樹</td> <td data-bbox="839 1366 1329 1467">京都大学・生命科学系キャリアパス形成ユニット 特定助教</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1471 730 1606">NBRP-Rat の医学生物学研究への貢献と新規疾患モデルの開発</td> <td data-bbox="738 1471 831 1606">芹川忠夫</td> <td data-bbox="839 1471 1329 1606">京都大学大学院医学研究科附属動物施設 施設長・教授</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1610 730 1711">ラットを用いた糖尿病研究</td> <td data-bbox="738 1610 831 1711">横井伯英</td> <td data-bbox="839 1610 1329 1711">神戸大学医学研究科 細胞分子医学 特命准教授</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1715 730 1895">質量分析法によるショウジョウバエの分子プロファイリング</td> <td data-bbox="738 1715 831 1895">武森信暁、山本雅敏</td> <td data-bbox="839 1715 1329 1895">京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター 研究員、教授</td> </tr> <tr> <td data-bbox="408 1899 730 1991">ショウジョウバエプロテオミクスと医学</td> <td data-bbox="738 1899 831 1991">松本博行、</td> <td data-bbox="839 1899 1329 1991">オクラホマ大学医学部・生化学分子生物学科 教授、准教授</td> </tr> </tbody> </table>	演題	演者	所属	分子医学におけるショウジョウバエ研究の重要性	加藤茂明	東京大学分子細胞生物学研究所 教授	ショウジョウバエを用いた神経行動学	江島 亜樹	京都大学・生命科学系キャリアパス形成ユニット 特定助教	NBRP-Rat の医学生物学研究への貢献と新規疾患モデルの開発	芹川忠夫	京都大学大学院医学研究科附属動物施設 施設長・教授	ラットを用いた糖尿病研究	横井伯英	神戸大学医学研究科 細胞分子医学 特命准教授	質量分析法によるショウジョウバエの分子プロファイリング	武森信暁、山本雅敏	京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター 研究員、教授	ショウジョウバエプロテオミクスと医学	松本博行、	オクラホマ大学医学部・生化学分子生物学科 教授、准教授
演題	演者	所属																				
分子医学におけるショウジョウバエ研究の重要性	加藤茂明	東京大学分子細胞生物学研究所 教授																				
ショウジョウバエを用いた神経行動学	江島 亜樹	京都大学・生命科学系キャリアパス形成ユニット 特定助教																				
NBRP-Rat の医学生物学研究への貢献と新規疾患モデルの開発	芹川忠夫	京都大学大学院医学研究科附属動物施設 施設長・教授																				
ラットを用いた糖尿病研究	横井伯英	神戸大学医学研究科 細胞分子医学 特命准教授																				
質量分析法によるショウジョウバエの分子プロファイリング	武森信暁、山本雅敏	京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター 研究員、教授																				
ショウジョウバエプロテオミクスと医学	松本博行、	オクラホマ大学医学部・生化学分子生物学科 教授、准教授																				

	との接点	小森直香	
	分裂酵母の配偶子形成におけるメンブレントラフィック	中村太郎	大阪市立大学大学院理学研究科准教授
今後の共同研究の見通し・予定	本シンポジウムをきっかけに、ラットや酵母とショウジョウバエの有効な利用法の検討、さらには生物資源を共通項としたプロテオミクス研究など新しい研究の話題が生じ、新規共同研究の計画が進んでいる。		
研究会活動の発表	京都工芸繊維大学ホームページトップ http://www.kit.ac.jp/ 京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターホームページ http://www.dgrc.kit.ac.jp/ ナショナルバイオリソースプロジェクトホームページ http://www.nbrp.jp/		